

本文の内容理解の問いが、「本文から答えを抜き出すだけ」で終わっていないでしょうか。抜き出しだけの発問では、読解は「答え探しゲーム」になり、思考も自己表現も生まれません。熟練の先生は、1つの本文に対して問いを3つの層（事実→推論→自分事）で設計しています。この記事は、その3層発問の作り方を、どの教科書のどの本文にも応用できる形で解説します。

この方法で解決できる悩み

- 内容理解の問いが抜き出し問題ばかりで、深く読めていない
- 発問を思いつきで出していて、授業ごとに質がばらつく
- 「本文について意見を書く」活動が唐突で、生徒が書けない

3層発問とは

同じ本文に、難易度と思考の質が異なる3種類の問いを用意します。

層	問いの性質	答えのありか
①事実発問	本文に書いてあることを問う	本文の中(1か所)
②推論発問	本文の情報をつないで考える	本文＋読み手の推論
③自分事発問	自分ならどうか・どう思うか	読み手自身の中

①で全員に読む足場を作り、②で思考を促し、③で自分の言葉を引き出す。この順に進むと、読みの浅い生徒も置き去りにせず、深い読みと自己表現まで到達できます。

各層の作り方(例: 環境問題がテーマの本文)

①事実発問(Fact)― 全員が答えられる足場

本文に明示された情報を問います。抜き出しや Yes/No で答えられるもの。

- What does the writer do every morning?
- When did the problem start?

ねらいは正解させることではなく、全員に本文の該当箇所を読ませること。ここでつまずく生徒には、該当段落を指し示す支援をします。

②推論発問(Inference)― 情報をつなぐ

複数の情報をつないだり、書かれていない意図を読んだりする問いです。

- Why did the writer change his mind? (理由が直接書かれていない場合)
- How did the writer feel at the end?

「本文のどこからそう考えた？」を必ずセットで問うのがコツです。根拠を本文に戻って探させることで、推論が当てずっぽうになりません。

③自分事発問(Personal)ー 自分の言葉へ

本文のテーマを自分に引きつけて考えさせます。

- What can you do about this problem?
- Do you agree with the writer? Why?

これが③まで来ると、都道府県立入試の「本文についてあなたの考えを書きなさい」型の設問そのものになります。毎時間③を1問置くだけで、意見を書く力が日常的に育ちます。

授業での使い方

3層を一度に配るのではなく、読みの段階に合わせて出します。

1. 1回目の読み(ざっと)→ ①事実発問で大枠をつかむ
2. 2回目の読み(じっくり)→ ②推論発問で深める
3. まとめ → ③自分事発問をペアで話す→1文書く

発問づくりに慣れないうちは、「①②③を1問ずつ、計3問だけ」に絞ってください。事実発問を5問も並べると答え探しに逆戻りします。理想は、事実1～2・推論1・自分事1のバランス。1本文に3～4問で、浅い読みから深い読みまで一本道が通ります。

本文の授業シリーズ

この3層発問は、オーラル・イントロダクション(読む前の内容導入)とリテリング(読んだ後の再生)の間に置くと効果的です。③自分事発問で書いた1文は、汎用「本文パート攻略シート・中3版」の意見欄にそのまま接続できます。本シリーズを通して、本文の授業が「訳読」から「読んで・考えて・語る」へと変わります。